

平成 30 年度カラス被害対策業務報告

はじめに

都会のカラスは、都会の自然の中で野生の生活を営んでいる、もっとも身近な野鳥のひとつです。都会に生活する人間は、同じ都会に適応して増えているカラスとはずっと付き合っていかななくてはなりません。

都会においては、カラスがうるさい、嫌いという反面、カラスに餌付けをする人がいるなど、カラスと人との関係もさまざまです。カラスが増えたおもな原因が生ごみであることもふくめ、私たち人間の生活が深く関わっています。

西宮市では、市民がカラスと共存しながら、安全・快適に都市生活を営んでいくために、基本的な対策として、ごみ対策を継続的に実施しております。

平成 29 年度より、さらに踏み込んだ対策として、1. カラスが攻撃的になる繁殖期の巣の撤去、2. 市内のカラスの生息数の把握、3. タカによるカラスの追払いを実施しております。

このたび、平成 30 年度の各事業の内容と結果をまとめましたので報告いたします。

1. 巣の撤去業務

カラスは繁殖期（おおむね 4 月から 7 月）に、巣の近くを通る人を攻撃してくることがあります。（カラスのみならず生き物の多くは、子どもを守るために敵に向かっていきます。）

そのため、市民の安全を確保するため、人を攻撃してくるカラスの巣を高所作業車等を使用して、撤去しました。

業務実施場所 : 市内の国、県、市が管理する敷地内及び市の指定する場所

業務実施内容 : 高所作業車を使用して、4ヶ所の巣を撤去

2. 生息数調査業務

カラス類は、冬季の夜間に集まって眠る「集団ねぐら」を形成することが知られています。この「ねぐら」に集まる個体数を数えることで、その地域に生息する個体数を推定します。

本市南部地域（西宮市越水字社家郷山以南）図-1 の住宅地において、カラスによる被害対策の検討資料とするため、カラスの生息数調査を実施しました。

なお、西宮市越水字社家郷山以北の北部地域においては、山間部が多く、カラスが本来生息する地域ですので、生息数調査は実施しておりません。

調査方法は、予備調査で「ねぐら」を特定し、その「ねぐら」において生息数調査（1 回目）を実施し、その後、タカによるカラスの追払いを実施して、2 回目の生息数調査を実施して、その効果測定を行いました。

予備調査 11月6日、7日

市内を広域に見渡せる調査地点を設け、カラスの「ねぐら」場所への移動を観察し「ねぐら」を特定しました。

予備調査の結果、神戸女学院大学岡田山キャンパス周辺、武庫川女子大学上甲子園キャンパス周辺、廣田神社周辺、西宮神社周辺の計4ヶ所の「ねぐら」を確認しました。

前年度に確認された高塚山の「ねぐら」は確認されませんでした。宅地開発等により「ねぐら」として利用できる樹林がほとんど残っていないことから、他所へ移動したと考えられます。

その他の可能性のある場所として、苦楽園周辺や西宮浜総合公園、夙川を調査しましたが、「ねぐら」として利用している個体を確認する事は出来ませんでした。

生息数調査（1回目） 11月29日、30日

予備調査で特定した4ヶ所の「ねぐら」において、「ねぐら」入りする個体数、飛行方向等を調査しました。

- ・概要として、予備調査時に確認されていた「ねぐら」のうち、平成29年度調査の1回目に比べ、神戸女学院岡田山キャンパス周辺の「ねぐら」の規模はやや減少していました。廣田神社周辺では1割以下に個体数が減少しており、平成29年度調査の2回目に近い個体数でした。また、西宮神社では昨年度より大規模な「ねぐら」が形成されていました。
- ・神戸女学院岡田山キャンパス周辺は、1回目調査では約570羽のねぐら入りが確認されました。「ねぐら」はキャンパス南側にある森林の中に存在し、17時頃より周辺のマンション屋上や校舎屋上等に集合し、「ねぐら」への移動が確認されました。
- ・廣田神社周辺は、1回目調査では約21羽のねぐら入りが確認されました。17時頃より周辺のマンション屋上に集合し、多くの個体は神戸女学院方面へ飛び去って行き、一部の個体が「ねぐら」へ移動しました。「ねぐら」の位置は、本殿から西の森林内に位置します。
- ・武庫川女子大学上甲子園キャンパスは、1回目調査では約1羽のねぐら入りが確認されました。予備調査時には、ねぐら入り前に武庫川河川敷に集まり、キャンパス内の樹林にねぐら入りする個体が多く見られましたが、本調査では確認されませんでした。武庫川河川敷に集まったカラスは、武庫川を超えて尼崎方面へ移動しました。
大学職員への聞き取りでは、普段は50羽程度が「ねぐら」として利用しているとの情報を得ましたが、今回、野生の猛禽類（ハヤブサ、ハイタカ）が飛来しており、その影響で「ねぐら」の位置が変わった可能性が考えられます。

- ・西宮神社は、1回目調査では約107羽のねぐら入りが確認されました。16時頃より周辺のマンション屋上等に集合し「ねぐら」へ移動しました。

調査結果

調査場所 「ねぐら」	予備調査 11/1, 11/2	1回目（羽） 11/29, 11/30	2回目（羽） 1/24, 1/25
神戸女学院岡田山キャンパス周辺	—	570	1（注）
廣田神社周辺	—	21	144
武庫川女子大学上甲子園キャンパス周辺	—	1	0
西宮神社	—	107	13
甲山森林公園	—	—	127
合計	—	699	285

（注）実際は、数10羽のねぐら入りがあったと予想されますが、調査員の死角から、ねぐら入りしたと考えられます。

生息数調査（2回目） 1月24日、25日

予備調査で特定した「ねぐら」において、生息数調査1回目の終了後に、タカによるカラスの追い払いを実施し、その効果を計るため2回目の生息数調査を実施しました。

上記の「ねぐら」の内、神戸女学院内の「ねぐら」は、「ねぐら」の外からの追い払いを実施しました。

- ・概要として、1回目調査と比べ、神戸女学院岡田山キャンパス周辺および西宮神社ではねぐら入り個体数が減少しました。それに比べ廣田神社周辺では個体数が大幅に増加しています。また、新たに甲山森林公園周辺で100羽以上のねぐら入りが確認されました。
- ・神戸女学院岡田山キャンパス周辺は、2回目調査では約1羽のねぐら入りが確認されました。実際は、数10羽のねぐら入りがあったと予想されますが、調査員の死角から、ねぐら入りしたと考えられます。
神戸女学院岡田山キャンパス周辺の「ねぐら」へは、一時的に滞在するために森林の中に入りますが、日没前になると、甲山森林公園や廣田神社周辺または宝塚市方面へ飛び去って行きました。
- ・廣田神社周辺は、2回目調査では約144羽のねぐら入りが確認されました。1回目調査と比較すると、個体数は増加しています。

近隣のマンションの住民からの情報では、放鷹が行われてから1～2週間はカラスの個体数は減少したが、最近では多くのカラスがマンションの屋上に集まっていると情報がありました。廣田神社は、何らかの理由によりこの周辺に執着した個体が多いため、放鷹によって一時的に離散しても再び戻って来ていると考えられます。

- ・武庫川女子大学上甲子園キャンパスは、2回目調査ではねぐら入りは確認されませんでした。武庫川河川敷において約70羽のカラスが集まっている様子を確認しましたが、ほとんどの個体が武庫川を超えて尼崎方面へ移動しました。
- ・西宮神社は、2回目調査では約13羽のねぐら入りが確認されました。1回目調査と比較すると、個体数は大幅に減少しています。
- ・甲山森林公園は、本年度の2回目調査時に初めてねぐら入りが確認され、100羽以上のカラスが「ねぐら」として利用していることが確認されました。神戸女学院の「ねぐら」を利用していたカラスの一部が移動したものと考えられます。

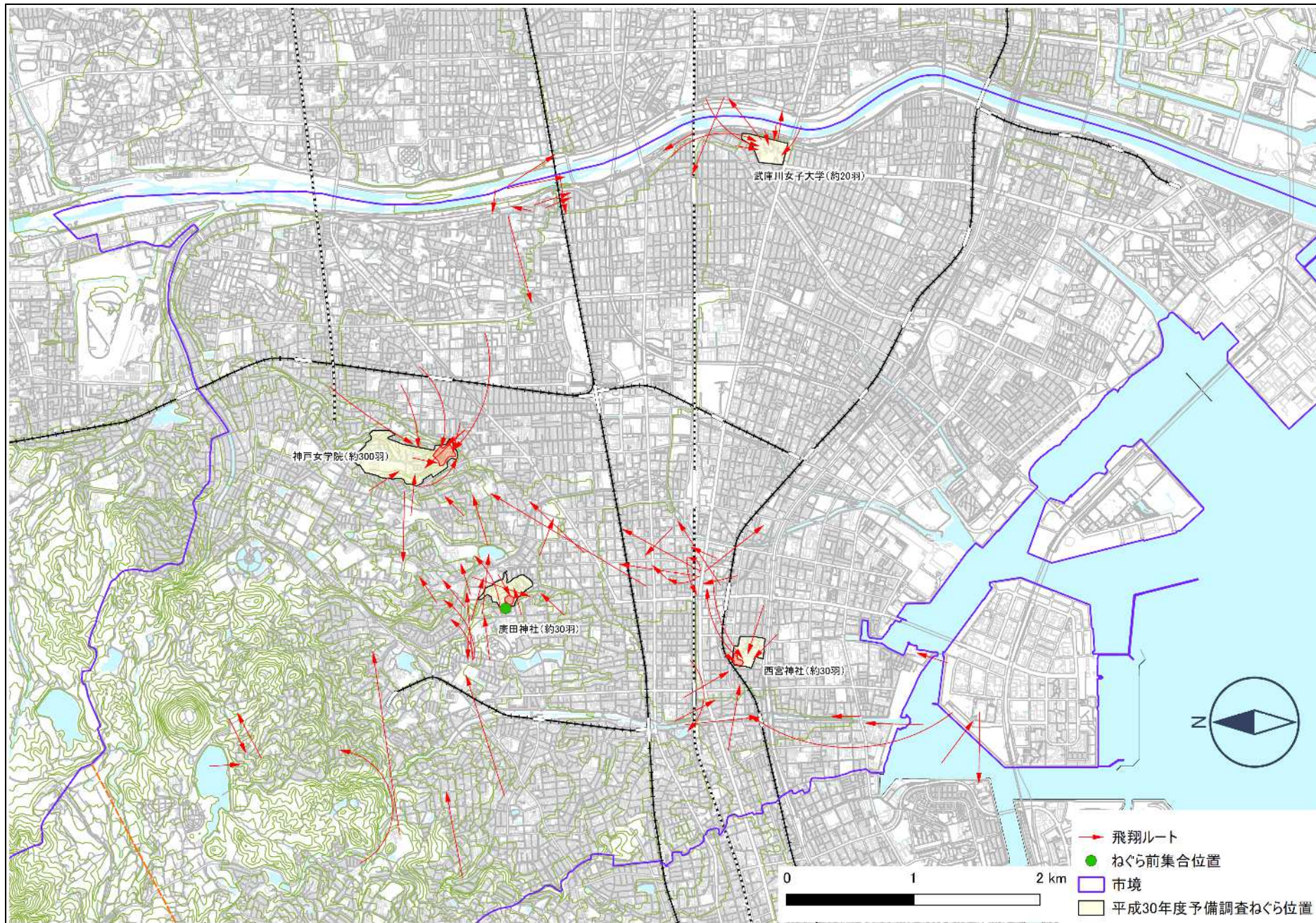
放鷹の効果

放鷹の効果が顕著にみられた「ねぐら」は、神戸女学院岡田山キャンパス周辺及び西宮神社でした。特に神戸女学院岡田山キャンパス周辺の「ねぐら」利用の個体数が激減しており、日中と同「ねぐら」周辺で活動していたカラスのほとんどは、日没前になると北の甲山森林公園及び宝塚市方面、または南西の廣田神社周辺へ飛び去っていくのが確認されました。

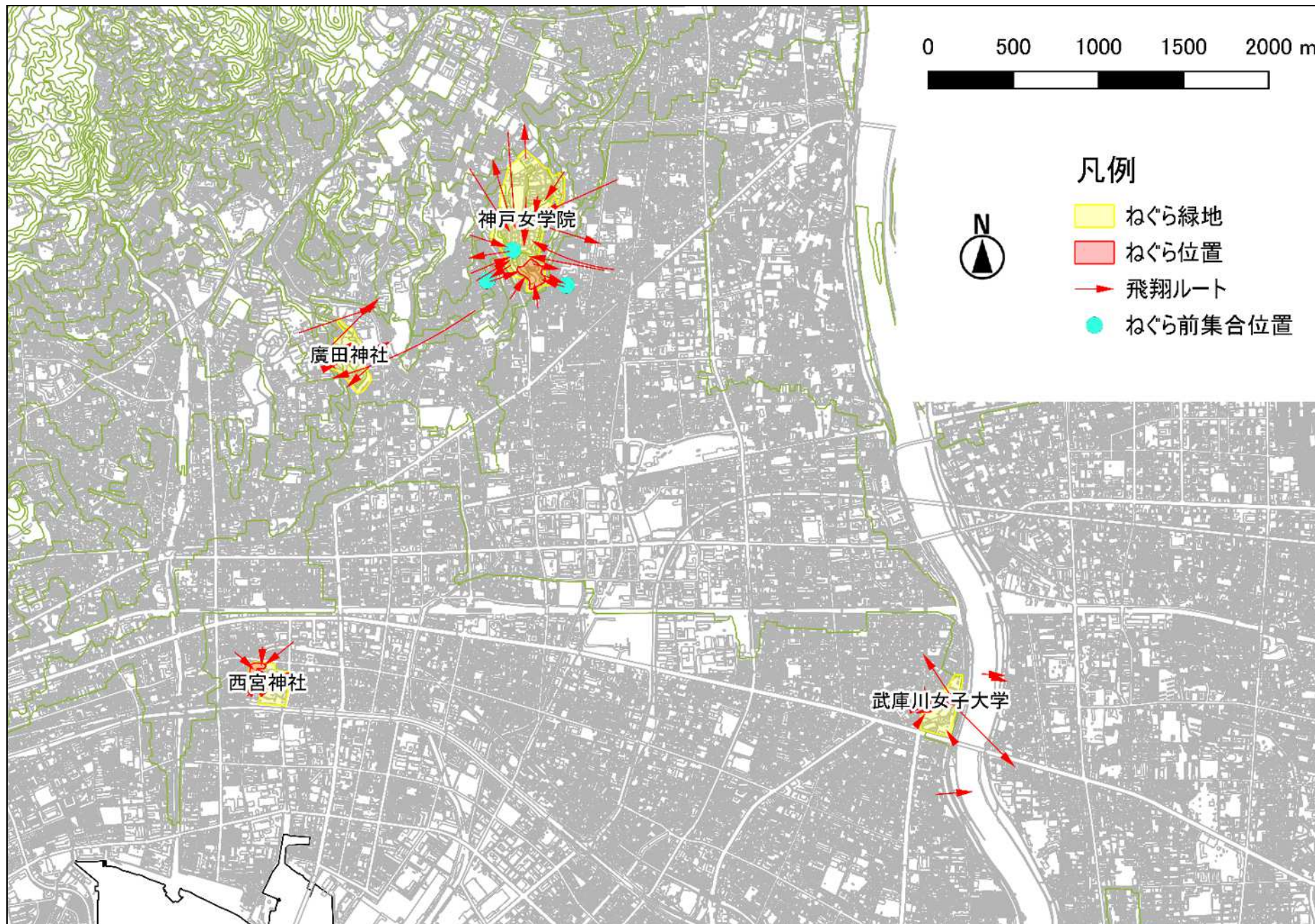
神戸女学院岡田山キャンパス周辺の「ねぐら」を利用していたカラスの多くが移転先として選んだ甲山森林公園は、人口密集地から離れた丘陵地に位置し、広大な樹林地を有するため、より多くのカラスの「ねぐら」を北部の丘陵地の樹林帯へ移すことが出来れば、西宮市内南部地域のカラス被害は最小限に抑えることが可能であると推察されます。

以上のことから放鷹は一定のカラス被害抑制効果はあると考えられます。しかしながら、廣田神社周辺では一時的に個体数が減少したものの、再び集まっていることが確認されており、一度減少した個体が再び戻ってくる可能性も考えられることから、今後もカラスの動向に注意する必要があると考えられます。

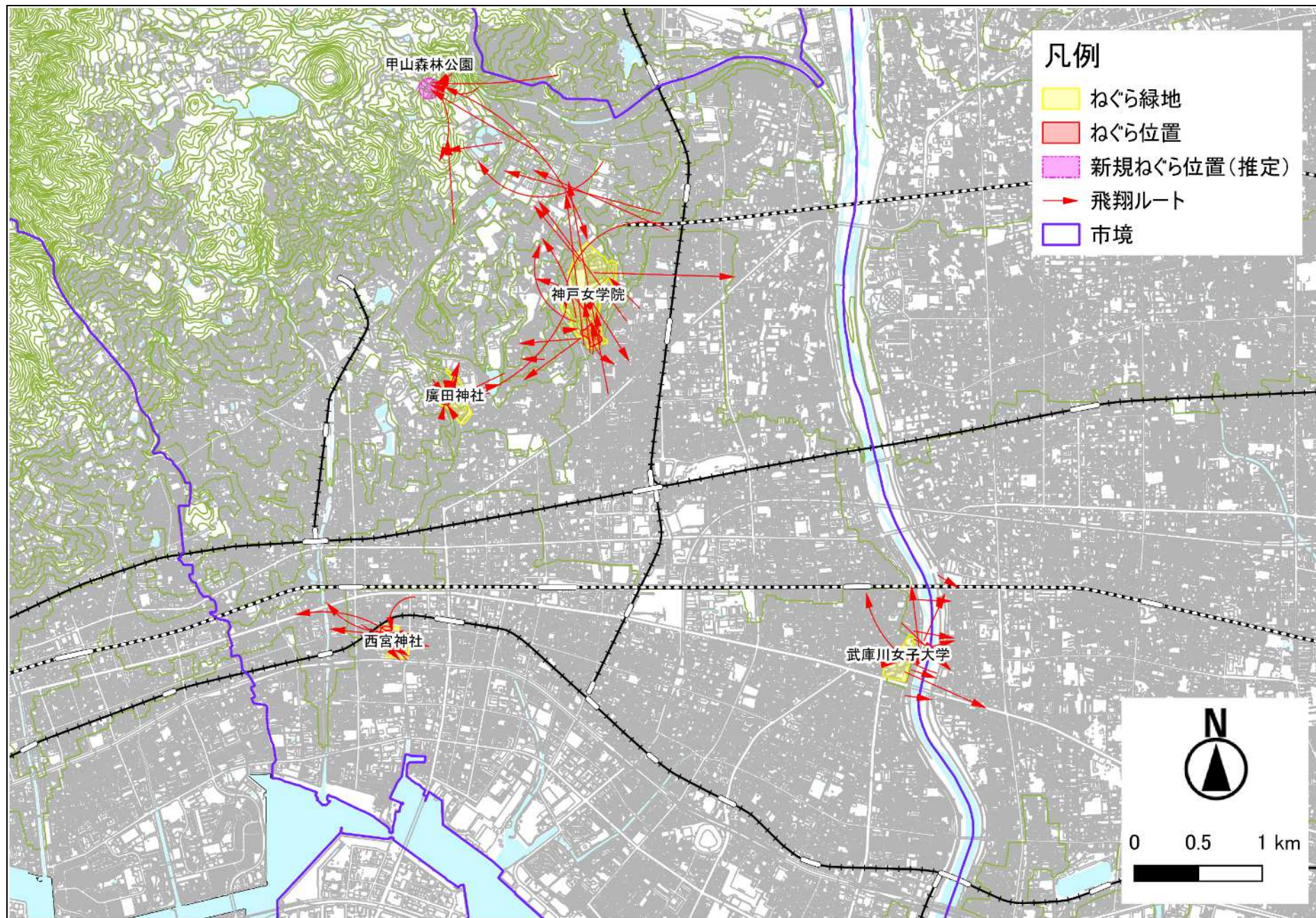
予備調査



生息数調査（1回目）



生息数調査（2回目）



3. タカによるカラス追払い業務

カラスによる被害の効果的な対策として、カラスの餌場となっているごみステーション、カラスが集団で夜を過ごす「ねぐら」等で、タカによるカラスの追払いを実施し、市民の安心・安全を確保しました。

業務実施場所

- ① 網引公園周辺 6月11日～25日
- ② 御代開公園周辺 6月11日～25日
- ③ 西田公園 6月24日、29日
- ④ 武庫川女子大学上甲子園キャンパス（ねぐら） 12月3日～26日
- ⑤ 西宮神社（ねぐら） 12月3日～21日
- ⑥ 廣田神社（ねぐら） 12月3日～27日
- ⑦ 岡田山（神戸女学院周辺）（ねぐら） 12月15日～28日
- ⑧ 西宮市食肉センター 平成31年2月13日～3月18日

業務実施内容

- ① 網引公園周辺
ごみステーションを荒らして、ごみを散らかす被害がひどい状況でした。
ごみの日に合わせてタカを放鳥し、カラスを追払いました。
- ② 西田公園
公園内にカラスの飛来が多く、公園内で遊ぶ子供に危険があるとの事で、タカを放鳥し、カラスを追払いました。
- ③ 武庫川女子大学上甲子園キャンパス（ねぐら）
作業開始前は、武庫川沿いの木に20～30羽のカラスがとまっていたましたが、タカを放鳥すると尼崎方面に飛び去って行きました。
- ④ 西宮神社（ねぐら）
放鷹開始後、20羽前後のカラスが集まってきました。
タカがカラスを捕獲し、捕獲されたカラスの声を聞いて、50～60羽集まってきましたが、しばらくすると散って行きました。捕獲したカラスは、すぐに放鳥しました。
- ⑤ 廣田神社（ねぐら）
当該場所の周辺マンション屋上や公園等にカラスは飛来しておりましたが、20羽程度で昨年と比べるとかなり個体数は減っていました。
昨年からの効果もあり、カラスもタカを認識し、姿を見ただけでいなくなりました。
公園内でネコに餌を与えている人がいて、それを目的にカラスが飛来していました。

⑥ 岡田山（神戸女学院周辺）（ねぐら）

昨年に比べ全体の個体数は減少していました。

去年は、正門側、正門裏、校内奥と全体に分散していましたが、今年度はタカの放鷹が難しい正門側と校内奥に集中しており、正門裏や下の方には飛来してきませんでした。

作業3、4回目ぐらいから、カラスの飛来数は減ってきました。

⑦ 西宮市食肉センター

作業開始前、食肉センターを餌場とするカラスが敷地内の地面や付近の電柱に20～30羽とまっていたが、タカを放鳥すると10分ほどでほとんどが飛び去って行きました。

見張り役のカラス数羽が近くのマンションの屋上にいましたが、敷地内には飛来してきませんでした。

この場所は、カラスの餌場になっていますので、継続しての作業が必要です。

おわりに

都市部におけるカラス対策を実施するにあたり、改めて考えさせられたのは、私たち人間が人として快適な生活をしていく上で、いかに自然と調和し、いかに自然と共生していくかということです。

自然は時として人の快適な生活を妨げます。カラスの問題もその一つです。

私たち人間の思い通りに自然を操ることは不可能です。しかしながら、市民の皆様がより快適な生活が送れるよう、市として様々な可能性に取り組んでまいります。

平成31年度も引き続き、カラスが攻撃的になる繁殖期の巣の撤去、タカによるカラスの追払いを実施してまいります。